

	作用部位	作用	ノルエピネフリン (NE)	エピネフリン (E)	イソプレナリン(イソプロテ レノール)	ドパミン (DOA) 1～5 γ	ドパミン (DOA) 5～10 γ	ドパミン (DOA) 10～ γ	ドブタミン (DOB)
商品名			α 、 β 受容体刺激薬	α 、 β 受容体刺激薬	プロタノール β 1、 β 2 刺激薬	イノバン 混合型アドレナリン作用薬			ドブトレックス β 1 刺激薬
			交感神経節後線維の伝達物質	エピネフリンは主に副腎髄質クロム親和性細胞よりホルモンとして血中に放出されます。少量ですが交感神経節後線維終末からも放出されます	イソプレナリンはエピネフリンのN-メチル基をN-イソプロピル基で置換したものです				
α 作用	血管	■血管が収縮。充血も改善。 α 2 受容体はカテコラミンの作用上あまり意義をもたないが、消化管平滑筋を弛緩させる作用を有する。	★★★	★★★	(-)	(-)	★	★★	★
β 1 作用	心臓	■心筋収縮力増強、心拍数増加	★★★	★★★	★★★	★	★★	★★	★★★
β 2 作用	血管・ 気管支	■気管支平滑筋を弛緩させて気道を拡張 ■血管も拡張 ■肥満細胞からのヒスタミンやSRS-Aなどのアレルギー性メディエーターの遊離を抑	(-)	★★	★★★	★	★	★	★
D1	腎・腸管 膜・ 冠動脈	■血管拡張	(-)	(-)	(-)	★★	★★	★★	
CO(心拍出量)			↑ or ⇒	↑↑	↑	⇒	↑	↑	↑
SVR(末梢血管抵抗)			↑↑	⇒ or ↑(高容量で)	↓	⇒	↑	↑↑	⇒ or ↓
主な使用			血圧低下時に昇圧剤として	喘息、 アナフィラキシー、 心肺蘇生 「 α 作用の■血管が収縮。充血も改善。 β 2 作用の■気管支平滑筋を弛緩させて気道を拡張。■肥満細胞からのヒスタミンやSRS-Aなどのアレルギー性メディエーターの遊離を抑制」があるから喘息やむア ナフィラキシーに使うの だろう	徐脈に使う 喘息	少量で腎、腸間膜、冠血管に分布するドパミンD1 受容体に作用することで血管拡張作用 大量で血圧上昇 ドパミン(商品名：イノバン)は急性心不全の第一選択薬として重要です。 それは、他のカテコールアミン(エピネフリン、ノルエピネフリン、ドブタミン)と比較して心拍数をあまり上昇させずに心拍出量を増大させることができる。腎血流を増加させるので十分な尿量が確保できる。という利点がある			心不全 血圧上昇
									